

第 28 回総合教育会議

○山口知事

一昨日、知事と市長、町長 21 人の GM というミーティングを開催したのですが、会議で、「教育大綱」の話題も出しまして、県はこういうものをつくりました。市長さんも町長さんも同じようなことができるんですけどと言ったら、このような形になったんだという感じでありましたので、県の教育大綱も参考にしながら、みんなで教育について話し合う機会が増えると思うので、これからもぜひよろしくお願いしたいと思います。

意外と反応はいい感じでした。それこそ司書の会の皆さんとか、図書館の皆さん、様々な方が、これを(佐賀県の教育大綱)見て、すごい我が意を得たりという方もおられます。これはどういう意味なんだろうという問いかけもあります。それも含めて、今までほとんどこの議論はなかったところを考える場、非常に意義があるのではないか、一石を投じているのではないかというところです。

それで、今日の議題なんですけれども、今までこの議論はあんまりしなかったのかなと思ったりもするんですけど、私がよく県民の皆さんから、進学実績をもっと上げてほしいとストレートに言われることが結構多くて、それは親だから、そういう気持ちになると思うのです。学力そのものってなかなか、特に大学の進学実績とか、そういったところに対するどういう教育をしているのかと、少し議論が難しい部分があったのかもしれません。一度、やってみようか思いますので、今日はそれぞれいろんな幅広く思いをお話しいただいたらいいかなと思っております。よろしくお願いします。

○井崎政策企画監

ありがとうございます。

先ほど知事が申し上げましたとおり、今日の意見交換のテーマは「学力」ということで行いたいと思います。

まず、私から簡単に説明をさせていただきます。

学力の要素としては、「学びに向かう姿勢、人間性」、それから「知識、技能」、「思考力、判断力、表現力、構想力」、こういったものが学力の要素ということで考えられます。

学力のイメージですけれども、まずは大学の合格の実績とか検定、あと資格取得、こうところが個人としての学力というもののイメージじゃなかろうかと。

一番下に書いてあるスーパー・サイエンス・ハイスクールについては、こういったものの積み重ねの実績として書かせていただいております。

学力の中で、今回は大学受験について意見交換をしていただきたいと思います。

御存じの方も多いと思いますが、大学入試の方式についてということで、我々の世代では一般選抜というのが主だと思います。学力試験で評価するというので、国公立大学、私立大学、そ

れから最近多くなっているのが総合型選抜で、大学のアドミッション・ポリシーに基づき、人物評価でその大学に合った人材をマッチングしていく選抜の方式です。

○笹谷教育振興課長

佐賀西高の流れということで、1年生の時から資料にお示ししている理由は、どうしても大学受験というと3年生になってから行うというイメージを持たれている方も多いのですが、1年次から進路選択に向けた指導が始まっているということで、1年から計画的に取り組んでいることを示しています。

大学入試の内容は、1、2年の内容が非常に多くあります。そして、最終的に3年生まで大学受験に向けて取り組むためには、1年生、2年生の時にどれだけ意識づけができたかということが大きいので、こういう構成を取っています。

1年生のところの最初の適性把握ですけれども、4月入学後に県下一斉試験や、それから課題テスト等を行うのと合わせて、生徒の適性把握を行っていきます。

県下一斉学力テストや課題テスト、適性検査等の結果を合わせて、担任を中心に生徒と面談を行い、ここから頻繁に面談を繰り返しながら、本人の適性把握をスタートさせていきます。

そして、あわせて、学問研究・社会問題研究ですけれども、将来の選択について、最終的に社会問題からアプローチをするのか、学問からアプローチをするのか、中学校から高校に入っただけの子供たちですので、社会全体に目を開かせて、将来の選択を自分で選択できるような意識づけをスタートしていきます。

あわせて(資料の)右側のほうですけれども、生徒の多くは、難関大と呼ばれる大学をあまり意識を持っておりませんので、この時期から卒業生の話とか、担任との面談等でより身近に感じさせるという戦略も取っていています。

あわせて8月には、希望者ですけれども、職員が引率して東京都内や首都圏の大学、研究所、企業、卒業生等を中心に意識づけを行うこととしています。

これらを踏まえて、1年次の終了、2学期末ですけれども、三者面談で文系、理系の選択をして、より具体的に大学受験までの流れをつくっていきます。

2年生になると、文理別の学級編制が行われます。ここで重要になるのがそれぞれ文理を選択しますけれども、選択した中で志望校、例えば、法学系に進むのか、経済系に進むのか、教育系に進むのか、例えば、医学系に進むのか、大きなくりの志望大学の研究というのを生徒にさせていきます。

あわせて、適性把握を行いながら、8月、希望する大学に自分たちでオープンキャンパスに参加して、より実物を見る。私が進路主任のときによくお勧めをしていたのは、できればこのとき保護者の方も一緒に行っていただくと、進路について親子で語り合うことができますよと。

○山口知事

高校2年の夏休みぐらいで、何となくでも、進路を考えてイメージするんだ。

○笹谷教育振興課長

そうですね。早い生徒はもう1年生の8月の時にここに行くと言うんですが、やはり意識が早いほど良いということになります。

この頃から、難関大の実力養成、あくまでも1、2年生のところの基礎、基本が大学入試の内容ですので、プラスアルファ応用的なものが10月ぐらいから入ってきて、スムーズにいけば、2年生の末にはきちんとした志望校が決定した状態で、3年生の志望大学別学級編制を行うことになります。

○山口知事

志望大学別学級編制というのをしているんですか。

○笹谷教育振興課長

そうですね、大まかに。細かくは分けませんが、特に文系においては、文系1クラス、2クラスで、例えば、東京大学が2次試験の社会は2科目にありますので。

9月、10月になると、共通テストの出願です。これはもう日本の全ての高校がこの時期に共通テストの出願を行います。

この頃から、(資料の)右側のほうですが、大学別の模擬試験が実施されますが、難関大向けの模擬試験ですので、希望生徒のみが受験をしていくことになります。

共通テスト対策が11月頃からですが、佐賀西高は11月ですけど、学校によってはもう少し早く共通テストの対策に入るところもあります。

(資料の)左側に戻りますが、12月に三者面談で私立大学の出願の決定を行います。

12月の三者面談で決定して、1月の大体上旬ぐらいに私立大学の一般受験の出願先が決まりますので、そこで、私立大学の受験と手続を行って、1月に共通テスト、その後、自己採点を終えて、国公立の2次指導に入っていきます。以上が、大まかな佐賀西高校の全体の流れになります。

○山口知事

受験校の決定というのは、本人が決めるんですか、それとも学校と一緒に相談しながら決めるんですか。

○笹谷教育振興課長

そうですね、学校と相談しながら決めますが、実は共通テストが終わった後に決定となってますが、実際には12月の三者面談のときにセンターテストの自己採点結果によってどういう方向でいかを保護者と話しております、3人で話しています。

こんなに低い点数でも自分は第1志望を貫くんだというようなたくましい選択をやっていく生徒が結構多いとかですね、事例的には厳しい判定でも、これは佐賀西高だけではないと

思うんですけれども、厳しい判定でも初志貫徹してやっていきたいという意思を持つ子もいます。

○山口知事

この流れって、基本的には佐賀西高とか、例えば、唐津東高とか伊万里高校とかみんな大体同じですか。

○笹谷教育振興課長

そうですね。

次は、大学受験に向けた主な取組を説明したいと思います。

先ほどは生徒の意識の醸成ということを行いましたけれども、そこに今度はもう一つの指導として先生たちの教科指導力が必要になってくると思います。

県全体として取り組んでいくことになりますけれども、例えば、スーパーティーチャー、高校は5教科、国、英、数、社、理といますので、こういうスーパーティーチャーたちの授業研究や、それからスーパーティーチャーに授業を見てもらって教科指導力をつける取組を行います。特に最も教科指導力に影響を与えるのが校内での作問ですね、定期考査とか、校内模試の作問や教材研究というのに非常に力を入れております。これをやることで、「作問ができるということは何がポイントか分かっている。何がポイントか分かっているということは、授業がきちんとできる」ということですので。教材研究を複数人のチームでやることで、若手も育つというような格好を取っています。

あわせて、大学入試問題研究ということで、生徒たちも赤本とかの研究は行いますけれども、先生たちが一体どんな大学入試の問題が出ているのかということが分からないと、結局、それを授業に落とし込むことができませんので、問題研究も積極的に行っています。

あとは、特に国語や英語部会などは教科ごとに授業研究会を行って、意見交換を行っています。

これ以外では、これは佐賀西高だけですけれども、右側のほうの九州7県の進学校の情報交換会というのを年1回行っています。

中高一貫校では、長崎、佐賀で中高一貫校の情報交換会、それから予備校等の講座への派遣ですね、そういうところでまた新たなスキルを身につけるということも行っております。

そのほか、他県の進学校への視察、これは希望すれば、教育委員会で予算をつけていただけるということで行っています。

一方で、教科指導をやって、プラス生徒の精神的なフォローもしていきますので、進路指導の充実のために、教科担当者会議、教科内での会議を密に行うということと、全ての進学校が行っております進路検討会です。これは模試データの分析もちろん前年度との比較も行いますし、当然分析も行います。そして、先ほど12月の三者面談等を行う前には必ず出願先検討というのをほぼ全職員が参加する形で、責任持って出願先の検討というのを行っております。

このほか、県教育委員会学校教育課が主催をしています志望校別の学習機会の確保ということで、合同学習会を行っております。

以上です。

○井崎政策企画監

ここからは、4年制大学に進学する生徒が多い県内の普通校5校の状況のデータを集めております。

説明は以上ですので、意見交換をお願いいたします。

○飯盛(清)委員

現場、私立高校ということで、今日、進路指導関係の職員と話をして先ほどの知事の御挨拶の中で進学率を上げてほしいという声が届きました。それは多分、有名国公立大学辺りを指しているのではないかと。私も古い人間ですので、さっきの5校のデータを見ると、やっぱり東大は3人かとか、やっぱりそこに目が行くんですよ。これは根強いものがある。

ところが、時代の要請というんですかね、変化の激しい時代ということで、大学の入試改革が言われ出してもうどれぐらいですかね、20年と言わないぐらいからずっと始まって、毎年変わっていると。幅が広がって、先ほど資料にもありましたが、あそこにも出ていますが、今は複線型ですよ、昔は上1本で。

それで、従来の進学校、佐賀西高を例に挙げると、やっぱり共通テストに重きを置くというのは外せないんじゃないかと。二番手という表現が適当かどうか分かりませんが、共通テストでは戦えない学校が総合型選抜に力を入れていこうというような傾向があると。探究活動という言われたりしていますけれども、そういったことに力を入れるということで、これは環境省が取り組んでいる、(環境省の)資料も出ているんだそうですが、色々な取組、分野で優秀な成績を出した、やっぱりそこを見てみると、中には農業系の学校があったりとか、商業とか工業とか、そういう学校からも国公立の合格者を出しているという実績を出しつつある学校も佐賀県も多分数校あったと思います。

共通テストの問題の傾向も、従来の知識詰め込み型が力を発揮するような問題から、教科を横断するような内容に変わってきていると。

ただし、表現力が問われる、英会話だったですかね、会話力だったかな、そっちにかじを切ろうとしたんだけど、やっぱり採点の問題があるということで、ちょっとそれはやめておきますというような話も数年前にあったと記憶しています。

それで、一番現場として今考えていること、困っていることと言っていいのかわかりませんが、当然だと思うんですが、社会が求めているものと、大学はそれぞれの大学が求めているもの、これは個々の大学で特性が違いますから当然だと思いますが、それで、学校、高校がそこから下りてきて求められているものに多少幅があると。ずれがあるということで、一番大事なことは、さっき佐賀西高の例にもありましたが、早い段階であなたはこのタイプの入試があっ

るから、こっちのほうを目指したらどうかというようなアドバイス、保護者も含めてですね、そういったようなことをすると、そこがポイントじゃないかなという話でした。

だから、県内の高校でも目指すものを色分けして、もちろん今やっておられるところですけども、それを明確に打ち出していく必要があるんじゃないかなということで、今度スクールミッションという話があって、各学校こういったことを考えて達成を目指していきますということで、今度はっきりと打ち出すような政策も昨日の教育委員会で提案があっていました。

先ほどの知事の御挨拶に戻りますが、保護者の進学先という声を届ける方の想像、予想ですけど、やっぱり有名国公立、それは保護者の意識としてどうなのかな、県民の保護者全てかなという決してそうじゃないような気がします。いろんな保護者の価値観も広がっていますから、そこら辺りをどう全てを満足させていくかを考えないといけないから難しいだろうということです。

以上、本日の勉強の成果です。あとは先生方が補足をしてくださると思いますので。

○山口知事

私が言っている声というのは一部です。県民全体という意味からすると、それぞれのお子さんに対する声があるので、ただ、この分野はやっていなかったから、県立高校って私もあんまりよく分かっていないので、一度知っておきたいなという趣旨です。特に何かを変えようとかいうことでは決してなくて、共有できているのは悪くないのではないのかなと思ったためです。

○笹谷教育振興課長

そもそも適性把握というのは、どんなタイプが合っているというよりは、どういう分野にあなたは興味があるんですねとか、あとは生活スタイルがこんな感じになっているけど、こういう生活スタイルも考えてみたらどうかというような、生活面まで合わせた適性把握になります。

○嘉村副教育長

個人面談しながら、この子はこういうものがあるねというのを担任が把握していく。

○山口知事

高校1年生の段階で、何か自分の進路というのはある程度決まっている子が多いですか。

○笹谷教育振興課長

そんなことはないです。何となくです。

○山口知事

何となく入ってきて、3年も先だからというのを、どっちかという学校側のほうから次考えんばいかんよって、いずれ3年後があるからねという中で、先ほどの飯盛(清)先生の話じゃないけ

ど、昔みたいに一般選抜ばっかりの僕らの時代と違うから。そっか、先生は大変だよね。いろんな行き場所があるんです、入試の形態にしてもね。推薦が何割ぐらいいるんですか。

○飯盛(清) 委員

学校の指定校推薦というのは、その学校と高校で1名ぐらいですかね。

○笹谷教育振興課長

大学が指定してくるのは、特定の高校に1枠というやり方です。

○飯盛(清) 委員

色々な大学から、例えば、致遠館高校に1枠ありますから、学校から推薦してくださいと。

○山口知事

それで行く人は、例えば、致遠館なら致遠館の中で何割ぐらいの人が推薦という、要は一般受験をしないで行くんですか。

○嘉村副教育長

致遠館高だったらそんなに多くないです。

○山口知事

佐賀西高だと。

○嘉村副教育長

西高はもっと多くないです。

○山口知事

多くない。多くないというのは、例えば？

○笹谷教育振興課長

自力で行くとかですね。1割ないですね。

○山口知事

本当？じゃ、今でもやっぱり9割は普通の受験をしているわけ。

○笹谷教育振興課長

普通の受験ですね。

○山口知事

推薦がすごい広がっているイメージがあったけど、そんなことないんだ。

○飯盛(清)委員

佐賀西高、致遠館高だからということもある。その辺がちょっと下がると、総合選抜に力を入れる。

○山口知事

そうしますと、1年生の段階で何か推薦を狙いますということもあるわけ。

そうすると、そういう子は別に一生懸命部活をやったりとか。

○笹谷教育振興課長

部活もですけど、学校側の申請の多くは評定平均値といって5、4、3、2、1の平均値が条件で、例えば、まず 4.3 以上でなければ出願できない、その中から希望する生徒を学校で選んでくださいということです。

○平尾政策部長

評定平均値は、美術とか体育とかも全部含めて。

○笹谷教育振興課長

そうです。

○山口知事

そしたら、それを中学のときから分かっている人は、佐賀西高じゃなくて、別の高校に行ってオール5を取って、これでやろうかといったことを考える人もいるわけ。

○嘉村副教育長

私学だったらですね。

○山口知事

ああ、そう、私学は。県立ってあんまりそういう部分ではない。

○嘉村副教育長

私学って、私立大学。

○平尾政策部長

私立大学がそういう評点 4.3 とか、そういう推薦なんですね。

○笹谷教育振興課長

評点も上から下までありますけど、高校によって指定校推薦がある大学というのは違うんですね。この大学の指定校は、この高校は持っているということはわかります。ちゃんとそれを狙われている方は。

○山口知事

それこそ私大とかはさ、これから少子化になったら推薦で多くの学生を確保しようと経営者は考えるんじゃないの、私大の経営者は。

○笹谷教育振興課長

そうですね。

○牟田委員

でも、例えば、早稲田大、慶應大は佐賀西高には、例えば何人ぐらい学校推薦してくださいと言っても、残念ながら伊万里高校には早稲田大、慶應大からは推薦は来ないと思うから。

○山口知事

本当？

○牟田委員

知らないですけど、だから、簡単なのは高校に行って頑張ったからといって。

○山口知事

ああ、そうなんだ。きっとそこにあるんだ。でも、そんなことを考えて高校受験をしているのかな、みんな。

○飯盛(清)委員

私立大学の生徒が少なくなっているから、囲い込みといいますか、早くなっている傾向があるみたいで、9月頃からもうエントリーがスタートして、11月頃からもう合格が出だすそうです。

だから、もうそれで受けている場合は、もう合格したら絶対うちに来ますよねという約束は強いからです。

○山口知事

約束したら内定の拘束みたいなものがあるわけ。

○笹谷教育振興課長

専願といいます。合格した場合には必ず来てください。

○飯盛(裕)委員

佐賀西高に1年しか通っていなかったの。日本の大学受験そのものの経験はしていないんですけど、複雑なシステムだなというのは。

○山口知事

1年だけいた、佐賀西高に。そしたら、そのときには何かそういう進路指導っぽいことがされて、あなたはどうするのみたいな話になっていたの。

○飯盛(裕)委員

ただ、日本の高校独特なのかは分かりませんが、2年からもう文系、理系とばきつと分かれるじゃないですか。それって海外はないですよ。

○山口知事

大学が文理に分かれているからかな。

○笹谷教育振興課長

そうですね。九大の共創学部のように、文理融合型の学部も最近はたくさん出てきてはいるのですが、基本的には入試科目が文系、理系で大きく違いますので。

○飯盛(裕)委員

そしたら、受ける大学もおのずと理系、文系に分かれてきちやうということですね。

○山口知事

佐賀県大は理文融合。

○平尾政策部長

うちの県立大学構想では、そういうことで、だから授業を受ける教科がぱんと分かれるということですよ、理系と文系。だから、生物は理系はしないとか。

○山口知事

何で日本はそんなに分けているんだろう。

○平尾政策部長 だから、この間も何か話をしていましたけど、日本独特ですよ、理系と文系をぱんと分けて。

○飯盛(裕)委員

医学部に行きたい人は、MCAT というテストを受ければ、高い点数を取れば誰でも行けるので、ビジネス、経済を勉強した人も医者になれるし。

○山口知事

だから、結構入試というのが、大学教育も含めて大きく影響しているから、そこを考えんといかんということなのね、実は。

この入試のやり方って誰が決めているの。大学が決めているの。

だから、大学も最近何か数学ができない経済学者が困っているのか、いろんなことを工夫しているわけだ。だから、大学の出口側からの要請に、高校側が結構柔軟に対応している。大変ね、高校も。

○笹谷教育振興課長

高校としてはそう言ってもらえると嬉しいです。

○山口知事

あと県立高校が、私立に比べて、結構、浪人で入ったりするところも多いじゃないですか、結構ね、実績を見てみると。

○甲斐教育長

大学に行くのに。

○山口知事

そう。だから、割ときっちり指導してて、何となく遅れがちになったりとか、受験、そういうことはないですか。要はきっちり勉強し過ぎちゃって、受験対策はなかなかちょっと後手踏んで、浪人すると予備校とか行ったりするから、ちょっとストレートに言うと。

○笹谷教育振興課長

そうですね。確かに県立高校というのはきちんとしたカリキュラムの中で学ばなければいけな

ということなので。今考えているというか、佐賀西高の進路主任時代にずっとやっていたのは、やっぱり1年生のときに基礎をやりますから、それが大学受験に結びつかないんじゃないかと、大学受験があるので、1年生のときの授業の組立てがそれに対応できるようにつくっていったらいいということをしていました。県立高校は、はい。やはりカリキュラムの規定があります。

○山口知事

理系のセンスを持っている人っていいですよ。理系なんですけど、やっぱり文系ができるんですよ。

サイエンスがだめなんだよね。何でもいから持っている人間って有利だよ。だから、やっぱり理文って大事だと思って。

○牟田委員

うちの子の話だけでも、数学ができないとやっぱり理系に行けないですよ。数学を求めない大学の理科系ってそうないと思うから。だから、数学ができないと分かった段階でうちの子なんかはもう文系ねと言ってた。

○山口知事

そういう人たちもいるの。私は数学がだめだから、だから、消極的文系みたいな。

○笹谷教育振興課長

そうですね、そういう選択をされる方もいます。一応進路指導としては、積極的選択。

○荒木委員

TSUNAGIプロジェクト、お父さん、お母さんとか、皆さんにお世話になって、高校生にアンケートを年度末の1月、2月に取らせていただいて、1万人分のデータを今持っているんですけど、文系、理系等をどうしましたかと聞いているんですよ。高1のときに分からないと言っている子たちが、全部高2、高3で文系のほうに流れていて、何であなたは理系を選んだんですか、何であなたは文系を選んでいるんですかとそれぞれに聞いているんですね。

そしたら、文系を選んだ子は、先ほど言われた消極的な、理系の科目が苦手だから。一方で、理系を選んだ子はこれをやりたいと。特に多分医療を考えるんですよ。これをやりたいからとか、何となくポジティブな感じがなくて、文系で自分は例えば弁護士さんになりたいからとかいう理由よりも、どっちかという苦手だから、何となく合っていると思うから、分からないみたいな、そういう理由が多かったのはすごい面白かったなと思ったのと、高1の段階であなたが好きな、興味がある学術分野を教えてくださいと言ったら、高1の段階で医療・看護が断トツに多くて、その次が経営でした。今、世の中の流れ的にはデジタルクリーン人材とかいって、すごい理工系

人材を私の佐賀大学でもすごく求めているんですけど、一般職ぐらいしか、女の子に至ってはもっと少ないみたいな感じだから、先ほどのところの大学訪問、研究オープンキャンパスの段階でいろんな分野があるんだよ、お医者さんや看護師さんも素晴らしいお仕事なんだけど、これから文化の時代、もうちょっと理文融合とか、何かそういうところに目を向けるというのもいいよねということを保護者にも、親にも伝えていくと、お医者さんもいいなと思っていたけど、理系に行こうかな、文理融合に行こうかな、留学しようかなとかいうように広がっていくかなとはちょっと思いました。

すごく高1の段階で、希望する分野が医師や看護というのが多かったので、みんなそれを求めているんだなというのがすごく面白かったです。今きれいにデータを整理しているところですので、後で報告したいと思います。

○山口知事

今度県の政策に理系人材を育てようとか、データサイエンスとか、リケジョ施策とかさ、結構理系が並ぶやん。でもそうやってみんな小学生たちが理系に目覚めてくれたりしても、さっきのお話だと、私は数学のテストができないから、やっぱり文系になろうとか、やっぱり好きだったら理系に行ってくれるかな。

○荒木委員

その時点で好きと思わせておけば、いいんです。

○甲斐教育長

だから、知り得た範囲でしか考えられない、親も知り得た範囲でしか自分の経験とかでしか見えない。だから、子供たちにいかに可能性を広げてあげるかと。

○山口知事

良いこと言いますね。可能性を広げてあげる。

○甲斐教育長

選択肢がもっとあるんだよと。だから、色々な人の話とか、色々な大学、色々なことに会うことをやっていかないといけないのかなと思っています。

○加藤委員

情報発信もすごく必要ですよ。特に高校生は私見が狭いこともありますし、保護者に対してもいかに情報発信ができるかということが鍵なんじゃないかなと思います。

○甲斐教育長

つつい親も先回りして、親が自分が文系だから、あんたも文系よとか——いや、分からないですよ。分からないけど、何となく理系何とか、文系何とかという時代の人たちは少しそういうことがあるのかなと思うと、自分の子供が意外にそっちに行ったんだね、へえとかいうこともあるので、絶対先回りして決めないということが大事なんじゃないかな。

○牟田委員

県立大学は数学を課さない。数学の試験科目を入れないとかね。

○山口知事

それがいいのかどうか。数学だけでできても、入ってもいいけどね。

○牟田委員

だけど、理科系で思うんですけど、数学ができないから理科系に行っちゃいけないかと、そんなことないと思います。

○甲斐教育長

数学も何か学ぶ意欲につながるものがあると、何のためにやっているかと分からない。高校のときの自分を振り返ると思うんですけど、(社会に)出ちゃうと統計とかデータとか使うんですよ。だから、そういうのが分かれば学ぶ意欲につながるのかな。

○山口知事

確率とか、当時は、何の技術と思ったけど、今思えばあれ使ってるよね、十分。

○甲斐教育長

そう。だから、先を見据えたことを。

○甲斐教育長

それを学校で先生方にも意識づけをしてもらうようにやっていく。

○山口知事

色々とやってきて、俺がやりたいのは、大学と高校の先生との連携をもっと図りたい。もっと行き来ができるというか、そうやっていくと触発されるんじゃないかなというか、高校の先生も何か同じ公式ばかり教えるんじゃなくて、これがこんなにできるんだということを持ち帰ったり、そうするとつながっていくんじゃないかなと、先に向けて。

○荒木委員

来られていますよ、佐大の教育学部に。

○山口知事

それをもっとやっていけばいいかなと。

○荒木委員

大学に訪問、致遠館高校さんとか来られますけど、先生もすごく触発されたと帰っていかれるんですね。

○山口知事

高校生のときは、それがその後どう役立つかって分からんやったでしょう。数ⅡBとかさ、何か日本史とか見ながらさ。これが何の役に立つか、まず教えてほしいなと思いながら覚えとったけど。

○牟田委員

数学難しかったね。法学部行ったらね。

○飯盛(清)委員

別の視点から。

国公立と私立、私がまず知り得ている情報としては、高校に入ってくるときに、県立は結構な定員割れが出ているんだけど、今年、自慢ではなくて、清和高校は史上最高の入学者数、3年生が320人ぐらい卒業したので、今度は436人という数字で、どうしてこんなに集まっているのという、やっぱり一番は就学支援金とか、そんなに差がなくなってきた、授業料関係、それじゃないかと。

あと、うちの学校は4つの学科があるからですね。それぞれ学力に応じての学科というのがあって、小さな高校が4つあるようなもんだということになるんですが、これは大学に関しても今後同じようなことが言えるんじゃないかなと。大学までは無償にするとか、そういったような動きといいますから。だから、国公立が価値が高かったのから、私立のほうに差が埋まっていくんじゃないかなという気がしています。だから、県立大学をつくるときの何かヒントになればな、というふうに思いました。

○山口知事

あれは結構佐賀の人は県外へ出すと生活費が結構かかりませんか。授業料もさることながら、どうだろう。だから、武雄アジアとか県大だと、もし、家の近くから通えたりとか思ったりも。

何かすごく分かってきそうですね。モヤモヤとしとったから。

自分のそのときのイメージと違うんじゃないか。違いますよね、今の大学とね。だから、先生も今の時代に合わせたような教育スタイルであったから、まさに我々が小学校の画一的教育をやってちやいかんわけだから、だから、先生も大変だ。

○荒木委員

先ほど私立大学がこれから大変だという話をして、某佐世保の私立大学は非常に来ないと悩んでいらっちゃって、どうするのかというと、まずスポーツ推薦、先ほど総合選抜があるのと、留学生、、もうここは日本だっけというぐらいに多国籍文化が、だから今、大学の先生は日本語で指導ができなくなる、とても大変だという話は聞きます。だけど、ここで生徒から見たら、行ったらいろんな人と無条件に触れられるというのはすごくいいなと思って。まちもいいなと思って、まちにも何といいますか、違う国籍の子がバイトとして入ると、まちのお店はすごくうれしい。言葉は通じないけど、例えば、台湾人が来たら台湾のお客さんが来たときに対応ができたりするから、まちとしては受け入れられているという。

○山口知事

佐賀県に外国人が少ないのは大学が少ないからかもしれない。だって、同じ人口の山梨とかさ、全然違うもんね。だから、大学に来ている可能性はあるね、外国人は。

○井崎政策企画監

特に山梨は、山梨学院とか留学生ばかりだそうです。

○平尾政策部長

そうです。

○山口知事

全然違うのよ。1万人以上違う、人口が。佐賀はすごい少なくて、今は急増してるけど。

○平尾政策部長

受入れがないからね、留学生が来る受入れがね。数がないから、大学の。数がないから、そうなっちゃうんですよ。

○山口知事

そうやって考えてくださって、佐賀って可能性の宝庫ですね、いろんなことが。

○加藤委員

そうですね。

○井崎政策企画監

他は何か。加藤先生は何か。

○加藤委員

今、大学は本当に多様化していて、多様化の高度化もしていて、聞いた話ではありますけど、今年度西九大でダイバーシティセンターってつくったじゃないですか。大学も発達障害系がとも増えていて、そういった人たちに対して引継ぎをしなくちゃいけないということらしいです。

○山口知事

増えているというのは。

○加藤委員

西九大の入学者に。

○山口知事

生徒さん。

○加藤委員

はい、学生が。

そういった子供たちは、小学校から中学校への引継ぎはあるんですよね。また、中学校から高校への引継ぎもあるんですよ。そして、ああそういう時代になったのかと思ったのは、高校から大学への個別支援の引継ぎというのが増えてきたので、ダイバーシティセンターをつくったらいいんですよね。

そこで、知能的には問題なくても、行動面や情緒面というところでは、大学も遠からず、引継ぎが必要になっていくんじゃないかなと思っています。

○荒木委員

ダイバーシティっていろいろあるんですけど、今、ニューロダイバーシティと言って、ニューロって神経、ダイバーシティって性別とか国籍とかいろいろある中で、そういうちょっと発達に少し不安がある方たちも一緒に活躍していきましょうって、その人たちはすごく能力がある部分では高かったりするけど、ちょっと協調性がないから、なかなか大学、いわゆるキャンパスライフが送りにくいという人がすごくうちの大学でも増えていて、ニューロダイバーシティの人が講演とかよく。

○加藤委員

高校側から引継ぎをしてほしいという要望が増えてきたらしいです。

○山口知事

そうね。

○飯盛(清)委員

今の時期、小学校から中学校、中学校から高校、今の3月までは送り出すほうが学校に引継ぎに来るんです。

4月になって担任が決まったら、今度は報告を受けた人が担任にそれを下ろす。こういう子だからと。春休みは非常に会議が多くなって忙しくなる。

去年なんかは曜日の関係で勤務日が少なかったから、始業式を1日先送りしたりとか、そういう状況です。

○山口知事

高校の先生って、今入ってくる子供一人一人の個性とかを引継ぎしたりしているんですか。

○笹谷教育振興課長

はい。中学校から入ってくる子とかの。

○飯盛(清)委員

全員ではないですね。

○笹谷教育振興課長

全員ではないです。

○山口知事

ケアすべきこととかね。きめ細か。

○飯盛(清)委員

この子のこの担任は厳しいから、この子は入替えようとか、そういったのまでやっていると思います。

○荒木委員

大学入試の共通テストも、配慮が必要、例えば、お腹が痛くなりやすいからトイレに行きたいから始まり、ちょっと他人と一緒にだと落ちつかないから、これをしちゃうから一人にしてくださいとかいう、本当にファイルが年々増えてきて。

○山口知事

共通テストの受験会場で。

○荒木委員

受験の会場、お部屋を個別のお部屋にしてくださいと。

○笹谷教育振興課長

申請することができるんですね。

○飯盛(清)委員

平等に学力だけで判定をしようということが求められている。

○飯盛(裕)委員

この前の九州中の教育委員の会議で、どこの県でしたか、鹿児島か長崎が、生徒にポートフォリオをつくってて、何か覚えていませんか。その子のフォルダーを小学校からずっと高校、大学まで全部上に上げていくという話をされていて、それもいいなと。

○井崎政策企画監

そろそろお時間でございますので。

最後、知事から一言お願いします。

○山口知事

今日は恐る恐るこの議題にしました。でも非常に少なくとも知事部局というか、我々にとってはとても参考になる話ばかりでした。そういったことを生かしながら、また総合教育会議で検討したいと思います。ありがとうございます。

井崎政策企画監

それでは、会を終了させていただきます。ありがとうございました。お疲れさまでした。